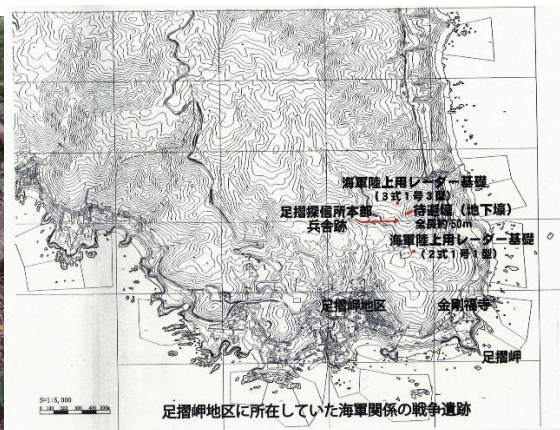


## ◎足摺岬小学校区の歴史&文化財 特集号(2)

今月は、足摺岬小学校4～6年生の総合学習で校区の歴史と文化財についての出前授業を予定(諸事情で13日に延期)しており、今回はその続編で太平洋戦争中の戦争遺跡等についてその主だった物を紹介させていただきます。

### (1)足摺岬山上(通称「天狗山」)に建設された海軍足摺探信所(電探基地)



↑2型1号1型レーダーのコンクリート基礎部分

昨年3月11～12日(木～金)と二日間にわたり、山中に建設された海軍施設の測量調査を市史編集委員会・出原恵三委員と市史調査協力員・大原純一氏を中心に土佐清水市郷土史同好会(武藤清会長)の協力を得て実施した。

この施設は、呉海軍警備隊所属のレーダー基地であり、2式1号1型及び3式1号3型のレーダーのコンクリート基礎部分、待避壕と推測される地下壕及び防空壕、本部指揮所跡、弾薬庫跡、兵舎跡、発電装置跡等が山中に点在している。枯れ葉や埋土を取り除きこれらをおおまかに測量調査し、図化して記録保存をしておいたことは、「令和2年度・市史編さん便り第30号」で報告した。

これらの施設は、昭和17年(1942)に呉海軍警備隊が、朝鮮人徴用、沖ノ島の女子挺身隊や地域住民等の協力を得て建設したものである。聞き取りによると、ボロボロの服を着た親子が浜から砂を肩にかついで天狗山の基地建設現場まで何回も往復していたという。80年経った現在でもこのレーダー基礎部分のコンクリートは厚く固まっており、時代の流れを感じさせない。この基地を建設するため、石や砂を小学生や小学校教員が運んだという記録が、『伊佐国民学校日誌』にも登場する。

## (2) 松尾地区 一女城鼻監視哨

昭和 19 年(1944)、陸軍特設警備隊によって米軍の本土空爆を見張るために造られた監視哨(かんししょう)である。広さ約 3 m<sup>2</sup>で三方に開かれた小窓を通して南方の水平線上仰角 15 度の海空を監視することができた。時には地域住民も監視に加わり、ここから海面すれすれに通過する米軍機を狙撃したこともあったと伝えられる。



↑ 松尾地区・女城鼻監視哨



↑ 監視哨南方の海空

## (3) 松尾・足摺岬に残存する防空壕・・・



↑ 松尾地区女川右岸部の旧県道脇に残る防空壕



↑ 足摺岬地区上前かくぼ川近くに残る防空壕

### 【編集後記】

戦争ほど残酷なものはない。戦争ほど人権が蹂躪されることはない。今、ロシアのウクライナへの侵略行為は、多くの罪もない国民や市民を殺害している。足摺探信所のレーダー基地が建設されてから 80 年の歳月を数える。

このとき生きていた人々が、高齢となりその記憶が少しずつ自然風化し、忘れ去られようとしている。平和学習は、広島や長崎だけではなく自分たちの身近な所にも教材はある。もちろん、広島や長崎に行き、資料館を見学することも大切なことである。しかし、ここで伝えたいことは、意識すれば、身近な地域に平和教材がたくさんあるということだ。核戦争や第 3 次世界大戦等、夢だと思っていた。昨今の状況は、決して楽観できない現状である。(田村)